

With you

あなたと
いっしょに・・・

第4回

「男女共同参画社会をめざして」

私たちの周りには、知らず知らずのうちに、よい意味においても、悪い意味においても、「当たり前」「常識」と一言で言われてしまうような古い習慣や思い込みが多くあります。それらが、自分や周りの人の行動を規制し、自分たちの暮らしや考え方を窮屈なものにしてはいないでしょうか。

今回は、それらの作られた概念を改めて見直してみました。性別や年齢にずいぶんとらわれていることに気がつきます。

「男だから」「女だから」「年をとっているから」「若いから」といった枠を取り払えたら、もっと生き生きと自分らしい生き方ができるような気がします。

そして、さらにはみんなが社会の構成員の一人として、思ったことを発表したり、行動したりすることが大切だと思います。

一人ひとりが生き生きと生きることが住みよい街づくりにつながっていったら、こんな素敵なことはありません。

時代とともに「当たり前」「常識」は変わっていくものです。

一緒に考えてみませんか？



「世の中もだんだん変わってきてたね。」



「へえ……。じゃあ、全体の半分じゃない。」



「ねえねえ、共働き世帯って、全体の47%もあるんだって！」

モックアップ
シカルちゃん



「ねってどう思いますか？」
With you(ワイズユー)編集会議編



「でもね、1日平均の家事時間（1）を見ると、妻は約4時間で夫は約20分だつてよ。」



「共働きなんだからもう少し手伝って欲しいよね。」



「これまでの習慣で、家事は妻の役割だと思ってる人や面倒だと思ってる男性が多いのかもしれないね。」



「でも、家事を男性にばかりやれやれって言うてるように誤解されているところがあるんじゃないの？」



「そうじゃないのね。自分たちのことから、協力してやればいいのね。」



「子供が3人いる私の友だちのことなんだけれど、たまに夫に手を貸して欲しいと思うことがあっても、仕事で疲れていると思うと、何も頼めないんだって。」

注釈へ



「働いている、働いていないに限らず、男だから、女だからということ、役割を決めてしまっていることが問題だと思っただけれど。」



「普段、これっておかしいなっと思ってあるよね。」



「私がよく行く施設の調理台って使いにくい。お鍋はもちろん大きめの皿も洗えない。きつとコップ程度しか洗ったことのない、男の人が考えたんじゃないのっかって思っね。」



「『男子ちゅう房に入らず』って、頭の中だけで調理台を作ったってことか？」



「少しでも家事を自分のこととしてやっていたら、もっと使いやすいものが出来たと思っね。」



「女性の視点、考え方が入っていなかったってことも考えられるわね。」



「僕の息子は、中学校で技術家庭科（2）の先生で、料理や裁縫も教えているんだ。」



「へえ、女の先生が教えるものだと思っただけれど今は違うんだね。」



「彼はね、料理とか裁縫とか好きなんだ。僕が一番驚いたよ。」



「そういえば、洋服の仕立屋さんやレストランのコックさんも男性が多いんだから、男性が料理や裁縫を教えるもぜんぜん問題ないよね。」



「いろいろな話を聞いたりして、男性女性で役割を決めていたけれど、まだ自分の中にも決めつけがあったのね。」



「この間、買い物に行ったら、男性用トイレにもベビーシート（3）があったよ。だけど授乳室は使いにくいんだってよ。」

注釈へ



注釈へ





「母乳をあげている女性がいると、赤ちゃんを抱いていても男性は入りにくいんだって。せめて授乳用スベースだけでも仕切られていればいいんだろっけ。」



「これは逆に女性の視点でしか作られていないってことよね。」



「うん、なるほどね。」



「授乳室って女性だけのものと思っていたけれど、必ずしもそうではないのね。」



「そうね、母親がミルクをあげるものと思われていただけかもしれないね。」



「家庭の中でも、古くから決められた習慣や常識とされてきたことが自分だけでなく周りの人に対しても生きにくく窮屈なものにしていると思うわ。」



「男だから家族を養わなければならぬ」というのもそうかしら。」



「女だから男だからでなく、個人がもつと生き生きと自分の持つ能力を生かせる社会にしていきたいに性別で役割を決めつけてしまうのは窮屈よね。」



「前はそれでうまく行っていたかもしれないけれど、世の中が変わってきて、環境問題、少子高齢化問題とか考えなければならぬことがたくさんあるよね。」



「それは、わたしたち人間社会に関することでしょ。女性も男性もなくみんな考えていかなくちやならない問題よね。」



「男性からの視点、女性からの視点、バランスよく取り入れることが、大切だっけってつくづく感じるわね。」



「一方の見方から物事を見るのではなくて、男女それぞれの視点からの物づくり、環境づくり、そして考え方が大切だよね。」



「男女共同参画社会ってお互いの欠点をあげつらって責め合うことではないんだよ。」



「世の中には、男性と女性しかないんだから、性別や年齢に関係なく、社会的に自立している一人の人間として、思いやりを持ってお互いを支え合うということが大切だよね。」

注釈

1 総務庁統計局「社会生活基本調査」(平成8年度)「夫と妻の一日の家事関連時間」(育児時間除く)の数字です。

2 『技術家庭科』

平成元年に改定された学習指導要領で男子生徒も女子生徒も同じ内容の授業を受けることになり、現在八戸市でも多くの中学校で男女一緒に授業を受けています。

3 『ベビーシート』

おむつ交換等をするための開閉式のシートのことです。八戸市庁内にも設置されています。



企画調整課からのお知らせ

男女で創る未来フォーラム in 八戸

ご案内!!

誰もが自分らしく生きることができ、お互いを認め合える社会を一緒に考えてみませんか？

テーマ 「今からの出発～輝く世代を共に生きる～」
日時 2月27日(日)午後1時～
場所 八戸市総合福祉会館(根城8丁目)

第1部 講演「川ちゃんの21世紀まで待てない！」
おしゃべりハウスでおなじみATVアナウンサー
川口 浩一氏
第2部 パネルディスカッション

入場料は無料。手話通訳あり。保育室利用者(2歳以上)は、事前に申し込みして下さい。

情報誌「With you」編集委員募集!!

市民の皆さんの視点で作る情報誌です。
このページの特集記事をつくってみませんか。
応募を心からお待ちしています。

応募資格 市内在住20歳以上の方(男女)
募集人員 若干名(任期2年)
応募方法 800字程度の作文
(男女共同参画社会、男女平等、少子高齢化、自分らしく生きるのテーマから一つ)と住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入のうえ、3月15日までに郵送して下さい。

いずれも申し込み・問い合わせ先は
企画調整課 内線485

こんなことをやりました

女性週間はちのへ展

平成11年4月、市制施行70周年を記念して、今なお輝いている70歳以上の15名(公募)の女性をパネルで紹介した「輝いている女性たち in はちのへ」は皆さんに勇気を与えました。

アンケートの声から

「たおやかに、前向きに歩き続ける先輩方から素敵に歳を重ねることを教わりました。」

「素敵に歳をとることに今日から私も挑戦します。」



男と女の未来セミナー

平成11年6月～10月、男女共同参画に向けて女性問題、介護、街づくり等の講義や話し合い、施設見学会を通して自ら考え、実行できる人材育成を目的に開催し、出席率の高かった24名に修了証書が渡されました。

受講者の声から

「眠っている自分を引き出すのは自分自身なのですね。」

「移り変わる社会に対応できる私でいたいと思います。」



女と男の明日を考える「はちのへ市民のつどい」

平成11年10月、「こころの居場所」と題し、「人生に賞味期限はない、今からでも花を咲かせようよ」と熱く、優しく語りかける作家落合恵子氏の講演に参加者一同聴き入っていました。

アンケートの声から

「いくつになっても私は私でいいのですね。」

「私が一生懸命生きてきて重ねた歳を誇りに思います。」



編集後記

男女共同参画社会を考える情報誌の最初の編集委員に選ばれて2年が過ぎようとしています。真っ白なキャンパスに夢を描くように、一人ひとりが住みやすい21世紀の社会を目指して、それぞれが編集作業に取り組みました。今回をもって私たちの任期は終了しますが、この取り組みが次の編集委員の方々にバトンタッチされるように、また皆様にも引き続き「With you(ウィズユー)」をとおして「男女共同参画社会」を身近なものとして関心を持っていただければ、第一期編集委員一同これほどうれしいことはありません。2年間本当にありがとうございました。

この記事は一般公募で選ばれた4人の市民のみなさんが編集しています。

お問い合わせ 企画調整課 男女共同参画室 内線485



編集スタッフ
松橋いく子さん
工藤 伸明さん
田向 令子さん
滝谷 淳子さん